

広島市内の近代水運支える

広島市中心部で近代の水運を支えた「雁木(がんぎ)」が土木学会(東京)の近代土木遺産リストに登録される見通しになった。15日には同学会メンバーで岡山大学院の馬場俊介教授(土木遺産論)が視察し、「これだけ大規模な雁木群は全国的にも珍しい」と高く評価した。(小川満久)

都心の雁木 土木遺産へ

視察 専門家「全国的にも珍しい」

調査実施は、地元のかつかけ。馬場教授は、特定非営利活動法人(NPO法人)「雁木組」が比較的古い雁木が多く残る中区橋本町の京橋川一帯を訪れ、「雁木組」の歴史調査や雁木タクシを運航してきたのがメンバーから説明を受けた。雁木は太田川水系のデルタ地帯に約三百力



雁木組のメンバーから説明を受けながら、京橋川沿いの雁木を視察する馬場教授(左)

(株) 要源石材店
082-432-2361

ち、最高のAランクに登録できる」との考えを示した。

馬場教授は今月上旬、

所あり、雁木タクシで京橋川、元安川、本川も見て回り、「三段階ある近代土木遺産のうち

二〇〇四年十月にNPO法人になった雁木組を知り、活動をまとめた資料も登録に役立ったという。氏原睦子理事長は「雁木が評価され、貴重な遺産として全国に知られるのはうれしい。『水の都』の宝を引き続き広めた」と話していた。

クリツク

雁木 潮の干満で水面が上下しても、船が着岸しやすいよう工夫した階段状の荷揚げ場。江戸時代から舟運で栄えた太田川流域に多く、瀬戸内海沿岸などにもわずかに残る。ぎざぎざの形状が、空を飛ぶガンの列に似ているのが名前の由来。